

安心・安全レター



2014年冬号

# みんなでつくろう！防犯のまち！ 増やそう！地域の目

私たちが日々生活をしていく上で欠かせないもの「安心・安全」。防犯の基本は、「自分の身は自分で守る」という一人ひとりの心がけです。「戸締りをしっかりする」、「夜、暗い道は避ける」など、日常のちょっとした心がけで犯罪にあう危険を減らすことができます。

橿原市内で発生する刑法犯の7割以上が窃盗犯です。平成26年10月末時点で62件の侵入窃盗事件が発生し、そのうち、約4割が一般家庭に対する空き巣、忍び込みの事件です。ガラス割りや無施錠での被害が多いのも特徴です。これらの犯罪はちょっとした“スキ”を狙って行われるのが特徴です。被害に遭わないためには、“スキ”をなくせば防げる可能性があります。一人ひとりが防犯意識をしっかりとって、防犯対策をすることが大切です。



## どろぼうが嫌がる4箇条

### ◎第1条 「音」が嫌い！

大きな音が出ると、周りの人に気づかれてしまうことから、泥棒は「音」を嫌います。家の周り等、泥棒の通り道になりそうなところに玉砂利を敷く、ドアや窓にセンサーや警報器をつけるなどして、音で泥棒を威嚇することが効果的です。

### ◎第2条 「光」が嫌い！

明かりがあることで、周囲の人に気づかれたりして、どろぼうが暗闇に隠れることができなくなることから、泥棒は「光」を嫌います。玄関前や駐車スペース、死角になるところにセンサーライトを設置するなど、光を使って泥棒などの侵入を防ぎましょう。また、ご近所が協力しあって、門灯を付け合うなどの工夫で、地域のつながりや防犯意識の高さを示すことができ、防犯効果があるとされています。

### ◎第3条 「人の目」が嫌い！

泥棒は人に見られたり、声をかけられることを嫌います。実際に、地域の人に「おはよう」、「こんにちは」、「何か用ですか？」などと声をかけられたことで、犯行をあきらめることが多いようです。泥棒は、このような地域住民の「あいさつ」や「声かけ」により、住民同士のつながりや連帯で、防犯意識の高いまちだと感じ、犯罪者に「ここでの犯行は無理だ。やめておこう！」と思わせる効果があるとされています。

### ◎第4条 「時間がかかる」ことが嫌い！

泥棒は、侵入するとき、時間がかかるのを嫌います。時間がかかるとつかまる可能性が高まるからです。侵入に5分以上かかるとあきらめるケースが多く、窓ガラスやドアを頑丈なものに取り替えたり、補助錠を取り付けたり、防犯フィルムを貼るなどして侵入されにくい環境を作りましょう。

被害に遭わないために、家族みんなで、地域ぐるみで実践しましょう！